

SATREPS プロジェクト ザンビア調査（2016年10月23日～10月29日）報告

北海道大学経済学部 樋渡雅人・成田大樹・山田大地

標記の調査において、下の活動を実施した。

1. グループ2（鉛汚染の人間影響）の日本側・ザンビア側参加研究者による今後のプロジェクトに関する打ち合わせ

・グループ全体で二度の打ち合わせを行い(10月25日、28日午後)、今後のプロジェクトの進め方について議論を行った。特に、来年の夏に実施予定の合同調査（血液、経済状況等）については、調査内容やサンプル抽出方法に関するより踏み込んだ議論が行われ、進展が見られた。経済チームとしては、中央統計局のサンプリング・フレームを活用することを提案した。

・上記に加え、UNZA 経済学部におけるパートナーである Prof. Chrispin Mphuka 及び Prof. Bona Chitah と打ち合わせを行い（10月27日）、研究の範囲及び今後の進め方について話し合った。今後まずプロトコルの原案を日本側で作成し、それをザンビア側に送付して文案の調整を行うこと、また現地での予備調査等を来年3月に行うこと（先方は3月終わりを希望）について合意した。

2. カブウェ市庁・中央統計局（Central Statistical Office）におけるカブウェの地理情報データの入手

・カブウェ市庁(municipal council)を二度訪問し（10月26日、27日）、Mukuka 氏の紹介の下、都市計画担当(urban planner)の Mike Glynn Moonga 氏と接触し、カブウェ市の地理情報データ(shape ファイル等)を入手した。これは、カブウェ市内の建物・世帯の位置情報と名称・世帯主名などを関連付ける進行中のプロジェクトの作業データである。ただし、カバー範囲はまだそれほど広くない。

・カブウェ市の中央統計局を二度訪問した（10月26日、27日）。（州単位でなく）カブウェ市単位で集計した産業・雇用などの経済基本データはそもそも存在しないようであった。カブウェ市における世帯調査のサンプリング手法についても助言を求めたが、これについてはルサカの中央統計局の担当者を訪ねることを勧められた。

・ルサカ市の中央統計局を訪問し（10月28日）、中央統計局の関わった全国規模の世帯調査である Living Condition Monitoring Survey や Demographic Health Survey の際に採用されたサンプリング・フレームに関する情報を入手した。この情報は、カブウェ市を対象とするサンプル抽出の際に用いられた SEA(Standard Enumeration Area)に関する地理情報データ(shape file 等)や各 SEA の世帯数などの基本データ(2010年センサスに基づく)を含む。

3. その他

・就労ビザの取得について、JICA 事務所において担当者に相談した(10月25日午前)。今回の渡航では滞在日が30日を超えないので、取得は難しいとのことであった。実際に30日を超える渡航の際に、現地において申請すれば、それほど時間がかからずに取得可能である(?)と言われた。

以上